

みる

いままで映画や舞台(芝居)のスケジュールをこの欄にのせてきました。映画館や芝居小屋から金をもらって宣伝してやるように思っている人が多い事と二ヶ月に一回の発行では、あまり役に立たないの、スケジュール掲載はやめることにします。

「蕪栗座」という京都のクルーが、十一月五日に西成市民館で芝居をやった。風流痴譚へふうりがたんしんというむずかしい題の芝居だったが、いやはや面白かった。あらすじはざっとこんなものだった。

ある農村から出稼ぎにきた「蚕造」という男が、大阪の工事現場で事故に会い記憶喪失となる。

蚕造は過去を失なったとき病院を抜け出し、柳食堂前で倒れる。過去の記憶のない蚕造は、食堂の主人幸と朝子の世話を受けることとなる。

三丘の後に、蚕造の専任代が柳食堂にあらわれた事から話は急変し、幸を故郷の北朝鮮に送り届けることを蚕造が請け負い、八尾空港から飛行機を乗って……

郡昇作著



釜ヶ崎

どん底の職業とその実態

センターの専務理事をやつた郡さんが昭和4年に出した「釜ヶ崎無情」の復刻版です。著者が今宮保護所長をしていた戦前の釜ヶ崎で、見たり聞いたりしたことを書きとめたり、感じるままに書いた「報告書」的な本です。

戦前(昭和四年)から昭和二一年までが中心になつてゐるせい、労働者のことより、浮浪者やルンペン中心に書かれてゐるが、彼らの気持や生活がかなり詳しくかかれており、いろいろな統計ともあわせて、資料的価値の多い本です。おもしろい本とはいいがたいけど昔の事を知る参考になるでしょう。

(釜生協取扱本)

林光一著

ルンペン学入門

ペッ出版 七五〇円

ルンペンについて、学者が研究して分析した本はいろいろあるが、当事者の側から出た本はかぞえるほどしかない、それも昔のものばかりで、最近は出ていない。

著者は上野を中心に、浅草、山谷を流して回つてゐる、その道十年の経験者だそう。

山谷でトヤの番頭をしていた時の事も書かれており、トヤ経営者の醜い姿に嫌気がさしてルンペンに入つたりする所や、行政(主に福祉事務所)とのケンカなど、共感するところの多い本である。

ルンペン、乞食、浮浪者として差別されている人々の考え、生き方を実によく描きだしているし、又アンコからわかるルンペンになつた人々への助言など、実用書でもある。これ一冊あれば、食うには困らないよ。

釜ヶ崎ニユース

ホ五回夏まつり

76年8月12日〜15日



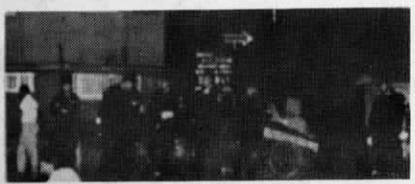
釜おどり、のど自慢、スイカ割り、すもう大会、他に夜店も仲間うちでやっていた。

盆になると、全国から釜ヶ崎へ里帰りする人（？）が三千人から五千人もいるといわれている。
 これらの若手者を中心とした夏まつりが、毎年、盆の三日前に三角公園を行われれている。
 今年は五回目。



いかに楽しそうです。

←うつりが悪いが、橋新隊のホリさん。
 まつりの警備(?)のために乱三服で登場。なぜか暗い所に立っているためうつりが悪いのです。





「東萩荘改築」

三角公園の西側、松村食堂や職業安定所や生協のある通り、それと反対側の方が改築工事をはじめた。中古のレコード店、ちいさなめし屋、古本屋などが並んだバラックふうの一角が、九月着工で年内には四階建になるといふ。

も十二月にはでき上って正月

「センター「日雇労働者の就労と福祉のために」発行」

同じく改築工事の話で、「トビタ本通商店街もアーケードを建てかえる工事中だ。これ

「トビタ本通」

アーケード改築」

西成労働福祉センターが「日雇労働者の就労と福祉のために」という事業報告を発行した。以前は毎年やっていた

のがこんどは五年ぶり、五年分まとめたわりにはうすく二八ページ。そのなかの「業種別宿泊施設」という調べをうつつしておく。

数 収容能力

簡易宿泊所	二〇一	二〇四一人
日払アパート	三九	二八二人
一般アパート	二四二	五五八三人
共同住宅	一	一〇〇人
旅館	三一	七二〇人
計	五二四	二八七一人

もう一つ、「飲食店営業種別」というのもうつつしておく。

店数	123	53	167	20	25	127	36	52	22	625
種類	屋敷	飲食店	計							
種別	立酒	販売	移動	飲食	飲食	飲食	飲食	飲食	飲食	計
	食	食	食	食	食	食	食	食	食	計
	中	中	中	中	中	中	中	中	中	計

特に飲食店の方は、たえず

動物園前一番街——となる。

数の変化があるけれど、大体のところはこの傾向というこ

投票で二位になったのは

「トビタ本通りの名前が変る」

名前が変る

作業服のマルゲン、立ち呑みの足立総本店の前は工事中だ

アーケード工事がすむと商店街は年末大売り出しという

にわたらしい地下鉄入口ができた。

一月はじめ、商店街のあたらしい名前が店主たちの投票で

すすんでいるわけで、次には天王寺寄りの入口がわたらしい

あたららしい名前は

くなる番だ。

トビタ本通り商店街のアーケード工事もこれと関連して

「十一月十日に何が？」

最近の釜は、私服のおまわりさんがよくたむろしている。特に過激派の拠点？釜生協のあたりには一日中。夜は、作業服姿のおまわりさんがトランシーパーをもつてパトロール。このさわぎ、どうやら十一月十日に予定されている天皇の在位五十年記念式典が済むまで続きそう。

阿倍野の方では、天皇をヒボウするステッカーをはったアナキスト宅が搜索されたとか。

傷病手当に弾圧か？

第一号逮捕者でる

新聞によると、西成ケーサツは九月二十二日、「傷病手当を詐取」したとのことで、釜の労働者を逮捕している。

これは、仕事のないために、アブレ賃さえもらいにくくなったため、多くの労働者が、日雇健康保険の資格のあるうちに、病院にかかって、一日二千六百四十円の傷病手当をもらうようになったことへの弾圧の始まりだろう。

うわさによると、去年から釜ヶ崎界わいの医者は急に日雇健康による患者が増えて、ある医院などはあまり多いので、当局から何か言われたらしい。

前にアブレ賃をもらう人間が増えたときにも、やはり職安のしめつけ強化がおこなわれ見せしめのイケニエとして何人かがバクられたことがあった。

今度も、保険事務所と警察が手を組んでうった芝居だろう。

だいたい、釜に長くいれば、体の悪いところぐらいいくつでもある。日頃ポーナスももらえない（夏と冬の一時金はおせじにもポーナスと呼ぶには少なすぎる）俺たちが、仕事の少ない時当然の権利として、日雇健康保を使って体を直してどこが悪いんだろう。

チョットばかり働らいたからといっても、サギでバクするほどの金額でもあるまいに、何を願がなならんのかいな。

ロッキードで何億という金が動きながら、半年もかかって今だにバクられない人もいるらしいし、児玉も小佐野も病気とかで逃げまわっている。

釜のアンコがチョット体を直して、アルバイトになにかしかかせいだからとて、それをせめることのできるような政府や警察やないだろりに。

それにしても、体を直すにもいろいろお上

のご気像を気にしながらせならんとは、何ともしんどいことです。

みなみなさま、せいぜいつつこまれないうちに気をつけましょう。

そのうち労災にも弾圧がくるかもしれな。労災でかかっている仲間も、つまらんことでバクられんよう気をつけよう。

笹島（名古屋）でドヤ火事

九月二七日夕方、名古屋の笹島で火事があった。四十軒近い家が焼けたりらしい。

ドヤでまた、一人が焼け殺された。

名古屋は、これを機会に、「環境浄化（？）のため」にドヤの立ち退きを進めるそりだ。

行政のやる事はいつも都合のわるい所を立ち退きさせるのに火事を利用する。浪速区の恵美のバラック街も同じ手で立ち退かされたが、その後、何一つ労働者住民のためになる

ような改革はされていない。

笹島もそうならないように願いたいものだ。

中原君「下請労働者」を発行

「渡世」元編集長「中原哲也」君が、新たに雑誌を発行しをした。

「下請労働者——甲斐性なし、能なし、怠け者、ワル、きちがい、ハンパ者、よどれ、等々とさげすまれ、労働者といわれている者こそ未来をつくる！」と長い副題のついたパンフレット形式の雑誌です。

内容は、

日本の革命を志す人たちへ、労働貴族を擁護する裁判所糾弾！ 四書月版斗争上告意見書、下請労働者は一つだ！ 泣き寝入りしなせぞ！ 久保田斗争ピラ、団結の哲学をうちたてよう「ひどいわ」主義に反対する。などで、四十八頁、ガリ刷り、百円です。

